

新型コロナウイルス対策 ～これまでとこれから～



2020年8月1日（土）
第一部：1400-1510
（10分休憩）
第二部：1520-1630

第一部

「COVID-19の飛沫・エアロゾル感染とN95マスク関連情報」



座長 村田 克 (産業部会副代表、早稲田大学)

(1) COVID-19流行の中長期的見通し

演者：和田耕治 (感染部会代表、国際医療福祉大学)

(2) COVID-19に関するエアロゾルの挙動と計測手法

演者：(株)東京ダイレック

(3) N95マスクの不良品の見分け方とN95マスク除染と再利用

演者：吉川 徹 (産業部会代表、職業感染制御研究会)

第二部 パネルディスカッション



「事例紹介から学ぶ長引く可能性のあるCOVID-19への対策」

座長 川島 正敏

(産業部会副代表 東海旅客鉄道株式会社 健康管理センター)

- (1) COVID-19流行下における当院の呼吸用保護具の運用について
～マスクフィッティングテスターが与えた影響～
演者：井口 光孝 (名古屋大学医学部附属病院 中央感染制御部)
- (2) 当院におけるCOVID-19受け入れ体制の構築ならびにN95マスクの供給状況と
代替え製品の採用について
演者：高谷美奈 (特定医療法人渡辺医学会 桜橋渡辺病院)
- (3) COVID-19から見えた職員のN95マスクに対する認識と今後の課題
演者：荒木 大輔 (市立室蘭総合病院 感染防止対策室)



(1) COVID-19流行下における当院の呼吸用保護具の運用について ～マスクフィッティングテスターが与えた影響～

演者：井口 光孝（名古屋大学医学部附属病院 中央感染制御部）

当院では以前よりN95マスクを着用する必要性の高い部署・職種において、マスクフィッティングテスターを用いたフィットテストを実施してきた。今回、COVID-19の流行でN95マスクを着用する診療従事者の範囲が広がるとともに、従来採用していたN95マスクの供給が不安定となったことで、多くの診療従事者に多種のN95マスクのフィットテストを行う必要が生じたものの、マスクフィッティングテスターを用いることで迅速に対応でき、また漏れ率の実測値を共有することで被検者の不安の軽減に役立った。重症例受け入れ施設としてPAPRを含めた呼吸用保護具の運用を報告する。



(2) 当院におけるCOVID-19受け入れ体制の構築ならびにN95マスクの供給状況と代替え製品の採用について

演者：高谷美奈（特定医療法人渡辺医学会 桜橋渡辺病院）

当院は循環器専門病院であり心臓疾患の三次救急の受け入れを行っているが感染症指定病院ではない。しかしながら心不全の重症患者を受け入れるにあたり類似患者の受け入れを行う体制を整える必要があった。

その体制構築が必要であったが指定病院ではないため早い段階でPPEの供給が枯渇した。その現状について報告する



(3) COVID-19から見えた職員のN95マスクに対する認識と今後の課題 演者：荒木 大輔（市立室蘭総合病院 感染防止対策室）

当院は感染症病床と結核病床を有し、これまで10数名のCOVID-19患者の入院や多数の疑い患者を受け入れており、最近では結核患者の入院も増えている。COVID-19の感染拡大に伴うN95マスクの管理方法の見直しや使用についてのこれまでを振り返り、私が感じたことや今後の課題について報告する。